

シビックデザインとしての駅前広場空間の評価方法について

岐阜大学工学部 学生員○小西康太

岐阜大学工学部 正会員 秋山孝正

1. はじめに

本研究は交通結節点として、非常に多くの人や交通の集まる駅前広場を、景観的な側面から見直すことを目的としている。

これまでの都市の交通問題としては、交通の安全性や円滑性の改善が議題の中心となってきた。しかしながら昨今では、そうした問題も去ることながら、我々の生活そのものにかかわる都市や交通行動における環境の改善も、より重要視されるようになってきている。したがって、本研究では円滑性や安全性の面からではなく景観の視点に立って、駅前広場のよいあり方の検討を行ってゆく。おおまかな研究の構成を以下に説明する。

まず前半では駅前広場におかれる施設の配置計画、つまり「どの施設をどこに配置すれば、駅前広場としてよいのか」ということを検討する。後半では駅前広場内で、歩行者や広場滞留者が目にするのできる景観について、どのように改善すればよいのかを検討する。

2. 施設配置計画の検討

2-1 検討に用いる駅前広場と施設

ここでは先にも述べたように、広場における施設の配置方法を検討する。分析に用いる施設の種類や広場の選定について以下に説明する。

施設としては、様々な駅前広場に研究の結果が利用できるよう、一般的に駅前広場に配置される施設のたいいていのものが必要になってくる。しかしながら施設や広場に関してあまり大規模なものを選びすぎると非常に分析が困難になる。

以上のことから本研究前半では施設や広場の種類、規模ともにほどよい、JR 岐阜駅前北側広場(図-1)と配置される各施設(図-2)とを材料に用いて、配置計画の検討を行うことにする。

2-2 施設配置についての基本的検討

ここでの検討に用いる駅前広場の施設は、先に説明したとおりであるが、それらを配置する際の基本的な

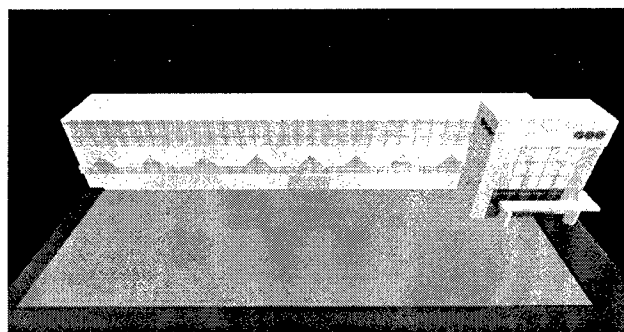


図-1 配置計画に用いる駅前広場

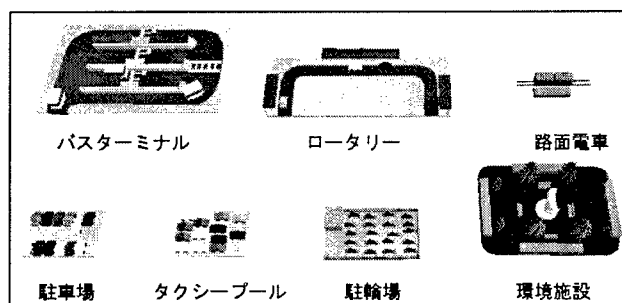


図-2 駅前広場に配置される施設

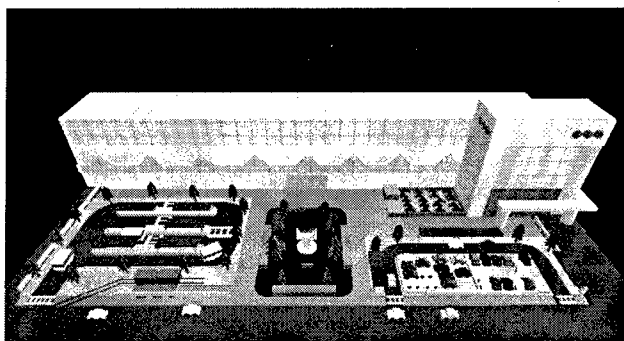


図-3 施設の配置例

約束や、配置によって起こる効果を考えてみたい。

まずバスターミナルやロータリー(自家用車乗降場、タクシー乗降場、団体バス乗降場)、路面電車といったものは、車両の出入りの激しい施設であるので、当然広場外の道路に面して置かれるべきであろう。またタクシープールはタクシー乗降場の状況が確認できやすい位置になければならないため、乗降場に近接して置かれなければならない。環境施設は広場隅に置かれるよりも、広場の中心に持ってきたほうが景観的には優れる。

施設配置においては、以上のようなことを考慮する

必要がある。

2-3 配置計画に用いる手法

2-2で述べたように施設の配置においては、約束事や効果など、様々な事を考慮しながら、最終的な配置方法を導き出さなければならない。(図-3)

そういった様々なルールのもとで設計をおこなう手法の一つに、エキスパートシステムがある。この手法を用いれば、このシステムのユーザーは駅前広場における任意の施設配置を入力するだけで、よい施設の配置方法を得ることができる。本研究前半はこのシステムの作成によって、駅前広場における施設の配置法を検討することが目的である。

3、駅前広場における景観評価

3-1 評価する景観と代替案

ここでは、当駅前広場内で問題を抱えていると思われる景観画像を用意し、画像処理を行い複数の代替案画像を作成する。それらについてどの案が好ましいのかを評価する。景観の例を図-4に示す。これらについて図-5のような代替案を作成し、それらの評価を行う。

3-2 評価の方法

景観は価格が存在しない財であるため、質の良し悪しを評価しにくいものである。そういった環境などの質の価値を貨幣的に評価する手法として CVM が用いられることがある。CVMを用いれば、あらゆる環境の価値を、使用者の意見を組み込んだ上で評価することができる。したがって本研究後半では、CVMを用いて景観画像の代替案の評価を行うこととする。また CVM の他にも妥当と思われる評価方法が見つかれば今後検討してゆく。

4、おわりに

本研究前半では、エキスパートシステムの作成による駅前広場における施設配置方法の検討、後半では駅前広場における様々な景観の改善を検討する。すなわち、大まかな施設配置面から見た景観の設計方法、細かな個別の施設ごとを見た景観の設計方法がそれぞれ導かれることになる。これらによって駅前広場空間全体としての景観の設計方法が導かれるのではないかと考えられる。

研究が進行中である、現段階での今後の課題として



図-4 景観画像の例

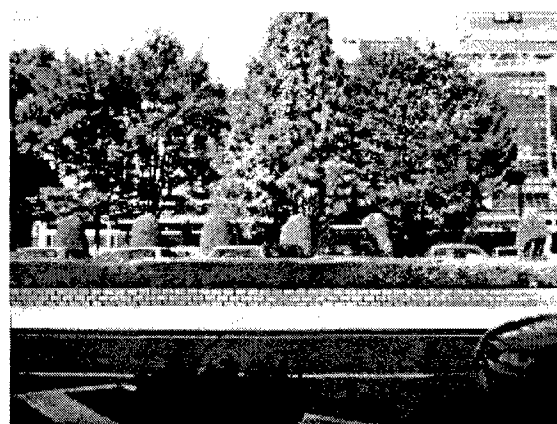


図-5 代替案の例

挙げられるものを以下に示す。

- ①エキスパートシステム作成においてのシステムのおおまかな構成、プログラミングの方法やルールベースの具体的検討
- ②景観評価に用いるその他の手法（SD法など）の検討
- ③前半の施設配置計画と後半の景観評価、両者のつながりの明確化

【参考文献】

- 1) 伊藤博喜・秋山孝正・山田正人：送電鉄塔イメージ評価のためのエキスパートシステムの作成，土木計画学研究・講演概要集，2000
- 2) 栗山浩一：公共事業と環境の価値—CVMガイドブック—，1998
- 3) 大野栄治：環境経済評価の実務，2000
- 4) 岐阜市役所都市計画部，都市交通再編プログラム策定調査